

## 平成28年度 同好会事業報告

俳文学 同好会 世話係名 奥 幸雄 会長名 鶴田 順子

月 日	実施した事業内容	参加人員
8月6日	高山村雷滝において吟行と句会	6名
11月19日	小布施町玄照寺において吟行と句会	5名

本年度の俳文学同好会は、6名の会員でスタートしました。主な活動は、吟行と句会です。毎日、仕事に追われ慌ただしく生活している中で、吟行・句会の時だけは、周りの自然を眺めながら穏やかに過ごすことができます。このような時間を過ごすことができる楽しさ、うまく表現できないもどかしさを感じながら同好会を行っています。

1回目は、8月6日、高山村雷滝に吟行に行き、栗ガ丘小学校で句会を行いました。同好会でいつもお世話になっている「雉子」主宰の田中保先生を講師にお迎えして行いました。

雷滝は同好会では今までに何度か行っています。その度にいろいろな発見があり、意欲的に俳句づくりができます。今回は、イノシシの子どもの姿が見られ、その可愛らしさに会員皆で歓声をあげました。雷滝に近づくと水量の多さに圧倒されました。はねあがる水しぶきが歩道にまであがってきていて、水の勢いを俳句にしたいと思いました。高山村から栗ガ丘小学校に戻ってくると、気温がぐんぐん上がり、涼しいところで気持ちよく俳句をつくることができたのだなと思いました。

2回目は、11月19日、小布施町玄照寺に吟行に行き、栗ガ丘小学校で句会を行いました。1回目と同様、田中保先生を講師にお迎えして行いました。

朝から冬の雨が降り続き、会員皆で「寒い、寒い。」と言いながら、傘を差して歩きました。紅葉がとても鮮やかで、池に幾重にも赤い葉が重なっている風景はとても美しかったです。吟行しないと俳句は作れないなと思いました。

句会の度に、自分の語彙力の無さを感じます。こういうことを俳句にしたいと思っても、そのことを限られた字数で表現することが難しいです。それでも、辞書を引き、それにぴったり合う言葉を探して、俳句ができると満足します。また、同じ景色を同好会

員がどんなふうに表示するかも勉強になります。講師の田中先生にご指導いただきながら、吟行、句会をしていきたいなと思いました。

(会長 鶴田 順子)